

令和9年度 瀬戸内市協働提案事業補助金テーマ一覧

令和9年度

番号	テーマ名	関係課
1	平常時・災害時に頼れる防災ネットワークづくり	危機管理課
2	利活用できない空き家の除却支援	危機管理課
3	瀬戸内市営バスの魅力発信等による新規利用者の増加	地域振興推進課
4	SDGs を起点とした協働の場づくり	市政推進課
5	地域農業の維持・発展に向けた環境づくり	農林水産課
6	地域農業者の安定した所得の維持及び所得向上に係る販路拡大	農林水産課

令和8年度（令和8年度に同事業を実施した団体のみ選択可能）

番号	テーマ名	関係課
1	多文化共生のまち、せとうち	市民課
2	高齢者が元気で安心して生活できる地域づくり	健康長寿課
3	子育てについての意識変化	こども家庭課
4	地元産業の認知度向上と若者世代へのしごとづくり	産業戦略課
5	子ども（未就学児～小学生）のニュースポーツを通じた世代間交流	社会教育課
6	牛窓図書館・長船図書館・移動図書館サービスの充実	図書館

令和9年度 瀬戸内市協働提案事業補助金テーマ

1	【テーマ】	【関係課】
	平常時・災害時に頼れる防災ネットワークづくり	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
	・過去の大規模災害の教訓から、特に災害発生直前・直後の段階では、行政による対応（公助）だけでは限界があるため、住民等による自助・共助の力を高める必要がある。 ・平常時・災害時において地域防災活動をけん引する人材等のネットワークづくりや、被災者支援に係る関係団体等の連携体制の構築、要配慮者等（高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、外国人など）に対する切れ目のない支援体制づくりが課題となっている。	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	・せとうち防災リーダー等の防災人材が平常時から学び、情報交換を行う場があることで、災害時においても相互に連携し、地域主体による防災活動が展開できる状態。 ・多様な関係者が参画し、被災者支援体制や要配慮者等の支援体制づくりが推進される状態。 ・形成されたネットワークにおいて知識・技能が蓄積されることで、家庭・地域のニーズに合わせた啓発活動等が自発的に実施される状態。	
2	【テーマ】	【関係課】
	利活用できない空き家の除却支援	危機管理課
	【解決したい課題・現状】	
	近年、利活用できない空き家の除却が滞る状況が続いており、その結果として危険な空き家が増加している。また、家財道具が放置されたままの空き家も多数存在し、これが地域の景観や安全性に深刻な影響を及ぼしている。 この課題を解決するためには、空き家所有者が除却を積極的に進められるよう、専門的な協力者の確保や支援体制の構築が必要である。そのため、除却を促進するための制度や助成金などに関する有用な情報を所有者や関係者に広く周知することが重要である。 これらの取り組みを地域全体で推進し、安心して快適に暮らせる生活環境を維持することを目指す必要がある。	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	・利活用できない空き家の除却が進み、地域住民が安心して生活できる状態。 ・地域内の相互援助で危険な空き家の発生を未然に防ぐことができる状態。 ・家財道具の整理・撤去等、所有者が抱える課題に集団で取り組むことができる状態。 ・所有者が除却を進めるために、行政や地域、専門業者等から必要な支援を受けられる状態。	
3	【テーマ】	【関係課】
	瀬戸内市営バスの魅力発信等による新規利用者の増加	地域振興推進課
	【解決したい課題・現状】	
	・利用者数は年々増加傾向にあるものの、固定客が多く、利用が伸び悩む路線もある。 ・市が発行する公共交通マップや市営バス時刻表では市営バス路線沿線の飲食店や店舗の情報が得られない。 ・観光客が目的地まで向かうためにはどの路線に乗ればよいか迷うことがある。	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	・市民・観光客ともに、移動手段として選択肢の一つに挙がる状態。 ・市営バスの新規利用者の増加を促すような、魅力的な情報媒体がある状態。 ・初めて瀬戸内市を訪れる観光客であっても、どの路線に乗れば目的地に行けるかが分かる状態。	

	【テーマ】	【関係課】
	SDGsを起点とした協働の場づくり	市政推進課
	【解決したい課題・現状】	
4	・市民へのSDGsの認知度は年々向上しているものの、市民まちづくり意識調査（令和8年度）では、「SDGsを知っている」と回答した市民は60.3%、「SDGsの目標達成のために何らかの行動をしている」と回答した市民は33.2%にとどまっている。 ・これまで推進してきた「瀬戸内市オリジナルSDGsカードゲーム」を活用した子どもたちへのSDGs教育をさらに深めるとともに、市全体への取組の普及促進や、SDGsを起点とした市外の人材・企業等との協働（関係人口の創出）など、新たな展開が求められている。	
	【目指す状態（実現したい状態）】 ・市民や地元企業がSDGsを正しく認知し、それぞれの立場に応じた身近な実践を通じてまちづくりに主体的に参画している状態。 ・SDGsの取組をきっかけに、瀬戸内市に関心を持つ市外の人や企業、NPO・地域団体、専門人材等との接点が生まれるとともに、地域活性化に向けて多様な主体が持つ力を活かせる環境が整っている状態。 ・なお、市外の関係者等が年数回の活動を通じて地域とつながることができる「体験・活動プログラム」や「仕組みづくり」の視点を含んだ事業提案（※「ふるさと住民登録制度」等の活用も見据えた提案）も歓迎します。 	
5	【テーマ】	【関係課】
	地域農業の維持・発展に向けた環境づくり	農林水産課
	【解決したい課題・現状】	
	・遊休農地及び耕作放棄地の解消 ・農業者人口の維持及び増加 ・次世代を担う農業者の育成・定着 ・新規就農者向けの農地の確保	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	・地域農業の担い手が十分に確保され安定した収入が維持されている状態。 ・遊休農地及び耕作放棄地が解消され、適正な管理のもとで栽培がされている状態。 ・新規就農者がいつでも耕作が可能な農地が一定数確保されている状態。	
6	【テーマ】	【関係課】
	地域農業者の安定した所得の維持及び所得向上に係る販路拡大	農林水産課
	【解決したい課題・現状】	
	・地域特産物等の知名度の向上 ・安定した収入の維持及び販路の拡大による所得向上	
	【目指す状態（実現したい状態）】	
	・ブランド化された地域特産物が他製品と差別化され販売される状態。 ・各農業者が自由に販路を選択し、販売額を農業者自身で設定できる状態。	

令和8年度 瀬戸内市協働提案事業補助金テーマ (令和8年度に同事業を実施した団体のみ選択可能)

1	【テーマ】	【関係課】
	多文化共生のまち、せとうち	市民課
	【解決したい課題・現状】	
	・瀬戸内市内には、外国人住民が多く生活しているが、特定技能実習などで来日された方が多く、市民との交流が希薄である。 ・日本の文化やマナーを知る機会が少なく、意図せず地域住民との軋轢が生じてしまうことがある。 ・市民の中には、外国人に対しバイアスを持っている住民も少なくなく、外国人住民との間に壁ができてしまっている。 ・市民が、外国の文化に触れる機会が少ない。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・市民が、外国人住民に対してバイアスを待たず、国籍に関係なく交流が生れる状態。 ・国籍や年齢に関係なくご近所同士で助け合いが出来る状態。 ・就労のために瀬戸内市に住んでいる外国人住民が、地域住民との交流を通し、暮らしやすい状態。 ・外国人住民、地域住民ともに互いの文化を理解し、違いを認め合い、軋轢が生じない状態。 ・市民が、外国の文化に触れる機会が多くある状態。	
2	【テーマ】	【関係課】
	高齢者が元気で安心して生活できる地域づくり	健康長寿課
	【解決したい課題・現状】	
	・介護給付費が増加している。 ・介護人材、専門職の数が減少している。 ・生活支援の担い手が不足している。 ・集いの場(サロン、はつらつ教室など)の参加者やリーダーが減少している。 ・集いの場に行けなくなった人の中には、集いの場に行きたいけど、足腰が悪くなったり、体力が低下して行けなくなった人が増えている。 ・多様な活動や場所の活用ができていない。 ・要支援状態の高齢者が利用できる社会資源が不足している。介護保険サービスにおける通所リハビリは市内1カ所のみ。介護保険サービス以外では、集いの場を除いて、リハビリ目的で利用できるサービスがない。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・加齢により足腰が弱くなってきた高齢者が、身体機能の向上ができる場所に通うことにより、もう一度、自分でお店に買物に行ったり、好きな場所に外出できる状態。 ・身体機能が低下し、自宅のお風呂に自力で入ることができなくなった高齢者が、もう一度、自宅のお風呂に入ることができたり、あきらめていた生活ができる状態。 ・介護予防日常生活支援総合事業の通所型サービスB(住民主体による支援)もしくは通所型サービスC(短期集中予防サービス)のサービス提供者が現れる状態。 ・介護給付費の増大を抑えることにより、介護保険料の値上がりを抑え、市民生活の負担が軽減できる状態。	

3	【テーマ】	【関係課】
	子育てについての意識変化	こども家庭課
	【解決したい課題・現状】	
	・岡山県の調査によると、本市の合計特殊出生率(2018-2022年)は1.32で、県平均(1.46)よりも低い。 ・本市においては、伝統的な男女の役割分担意識が根強く、男女がともに協力して子育てや家事を行うという意識が低いという調査結果が示されている。 ・また、幼いころの結婚や子どもに関わる経験が不足しているという調査結果も示されており、これらのことが、上記の合計特殊出生率となった要因の一つであると考えられる。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・若年層に対し、「子育てや家事は男女がともに担っていくものである」ということを意識付けし、その負担感を減らすことで、幸福感を感じ自分らしい生活が送れる状態。 ・このことにより、「次の子どもを持ちたい」という希望を生む。 ・次世代を担う若者に、子育て世帯や子どもと触れ合ってもらうことで、子育てすることの喜びを感じてもらい、将来、子を持ちたいという希望を持ってもらう。	
4	【テーマ】	【関係課】
	地元産業の認知度向上と若者世代へのしごとづくり	産業戦略課
	【解決したい課題・現状】	
	・進学、就職時における若者世代が市外流出し、環流が少ない。 ・地元高校や中学校での探究学習は行っているが、その後の地元定着への流れが作れていない。 ・市内に雇用の受け皿や就業機会はあっても地元産業の認知度は低く、就業時に選択されない。 ・就業に対する若者世代のニーズが把握できておらず、ミスマッチが生じている。 ・若者が地域に定着せず、担い手不足による地域のイベントやコミュニティが維持できなくなっている。 ・事業者と就業者の一体的な支援、地域産業と市民の交流を目的とした拠点施設「地域ビジネス支援センター(仮称)」の建設を進めており、令和8年度中には開設予定としている。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・地域産業の担い手、労働力が十分に確保されており、持続的発展に向けた経済活動が活発化している状態。 ・若者世代の多様な就業希望に見合う企業が市内に存在し、認知され、就業先として選択されることで、若者の地域への定着、環流が生まれる状態。 ・市内企業や学生が地域とつながり、相互理解を深めながら、新たな価値創造や課題解決のプロセスを見いだせる状態。 ・地域ビジネス支援センター(仮称)が若者世代に多く利用される施設となり、多種多様なイベント、交流を通じて、地域産業の拠点として活用される状態。	

5	【テーマ】	【関係課】
	子ども(未就学児～小学生)のニュースポーツを通じた世代間交流	社会教育課
	【解決したい課題・現状】	
	・放課後の時間帯に子どもたちが安全に過ごせる居場所・時間を設けたい。 ・スポーツ少年団やスポーツクラブに所属していなくてもスポーツに触れ、子どものスポーツ習慣の定着を図りつつ、スポーツを通じて同年代だけでなく世代を超えた地域の人々と交流する機会をつくりたい。 ・指導者等で参加する大人世代(若者～高齢者世代)にとっても活動への参加(参画)を通じて、自身の生涯学習につながる機会をつくりたい。	
6	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・放課後に子どもたちが安全に過ごせ、多世代と交流できる時間(居場所)の創出。 ・ニュースポーツを通じて子どもたちが気軽にスポーツに触れる機会を創出し、運動習慣の定着につなげ、健康増進、体力向上につなげる。 ・子どもだけでなく、運営(サポート側)の大人にとっても世代を超えた交流機会として、地域の繋がりを強くする機会にする。	
	【テーマ】	【関係課】
	牛窓図書館・長船図書館・移動図書館サービスの充実	図書館
	【解決したい課題・現状】	
	・瀬戸内市民図書館は、令和8年度に開館10周年を迎え、市民の認知度も高まり、多くの方に利用されているが、分館や移動図書館での利用は多いとは言い難い。 ・長船図書館は、令和6年度にリニューアルし、以前に比べ利用が増えてはいるが、おはなし会以外のイベントが実施できていない。 ・牛窓図書館もおはなし会以外のイベントが実施できていない。	
	【目指す状態(実現したい状態)】	
	・全域サービスとしての図書館利用の周知。 ・市民図書館の利用が困難な方が、地区館や移動図書館を積極的に利用できる状態。 ・地区館でも、市民交流や読書活動を推進するイベントの実施。	